



大阪市立 文の里中学校図書室

司書さんより

おすすめ本紹介
6.24号



『線は、僕を描く』 砥上裕將

横浜流星さん主演で映画化された話題の小説。心を閉ざしてしまっていた主人公が出会ったのは水墨画。始めは、まったく興味がなかった純日本の世界の魅力に吸い込まれ、そこで出会う魅力的で人間味のある人達によって主人公の運命が開(ひら)けていきます。現役の水墨画家による小説だけあって、調墨(ちょうぼく)(=墨の濃さを調節すること)や雅号(がごう)(=画家としての名前)など、美しく深い水墨画の世界のことを知る機会にもなります。

読んでいると、墨の香りがしてくるような気がして不思議！そして、なかなか到達できない水墨画が描こうとする「命」の輝きとは。水墨画なんて見たこともないない、そんな人がほとんどだと思いますが、見てみたいかも！そして、やってみたいかも！と思える展開です。簡単には乗り越えられない苦しみの中でもがく主人公ですが、周りの人を信じて一步踏み出していく姿に勇気をもたらせる物語です。



『ちはやふる』の脚作脚が新たに挑む、“水墨画”の世界。青春映画の金字塔、再び。

(C) 砥上裕將／講談社 (C)2022映画「線は、僕を描く」製作委員会

